

JICA中国事務所ニュース

(2006年8月号)

1. JICA 及び JICA 事業に関する最近のトピック

(1) 「人間の物語」を目指して ～ウィルキンソン広報アドバイザー 内モンゴル取材～

ウィルキンソン広報アドバイザーは、国連高等弁務官事務所での広報担当者としての実績を買われ、JICAの海外広報に対するアドバイザーとして赴任されました。ウィルキンソンアドバイザーは、7月6日から15日までの10日間に渡り、JICAのホームページや広報ビデオ作成のために中国の四川省及び内モンゴルを取材しました。

ウィルキンソンさんは、JICA NEWSでJICAの広報のあり方について「しっかりした方針もないし、職員は関心を持っていない。」と辛口のコメントをしています。実際には温厚なウィルキンソンさんは、UNHCRではコソボ紛争の現場での広報対応を経験されていることもあり、現在はJICAのアドバイザーとして臨場感のある情報発信を目指していらっしゃいます。そしてそのキーワードは「人間の物語(human stories)」です。

ウィルキンソンさんの内モンゴルでの取材には、事務所から大久保職員と王莉所員が同行しました。内モンゴルでは草の根技術協力事業の「アラシャン盟における砂漠化防止のための種子採取事業の確立と環境教育のモデル事業」(「アラシャン砂漠化防止プロジェクト」)が取材対象に選ばれました。

アラシャン砂漠化防止プロジェクトは、日本のNGO(「世界の砂漠を緑で包む会」)が、内モンゴルのNGO(「黄河文化経済発展研究会」)と協力して、砂漠化防止のための植林を行い、あわせて牧民の定住化支援や環境教育を行っているものです。

「研究会」会長の呉精忠氏は、内モンゴル政府の高官を定年退職した後、より草の根的な活動をしたいということで、この事業に取り組んでいるエネルギーが豊富な方です。そして「包む会」の呉向荣事務局長は、呉

会長の息子さんで、日本留学後、「包む会」の仕事に尽力するようになりました。「日本の多くのボランティアが自分の国である中国で植林しているのを見て、自分も何かしなければならぬ」と思ったのが、活動のきっかけだそうです。もともと砂漠化や植林については何も知らなかった呉事務局長は、今は立派な専門家です。

プロジェクトサイトには、日本から訪れたボランティアが植えた灌木が育っていました。そして木々の横には植えた方々の名前の札が立っていました。広大な内モンゴルの砂漠に比べれば、ボランティアが植えた木々はわずかな広さですが、それでも目に見える形で草の根の協力がわかる風景でした。ウィルキンソンさんは、そのような風景を撮影しながら、呉親子のインタビュー

を行いました。またプロジェクトに協力している牧民の家庭を訪問し、砂漠化が進む地域の様子と、プロジェクトにより植林知識を得ることができ、木々の育成は順当であり、今後も協力したいという力強いコメントを得ることができました。このように、ウィルキンソンさんの取材により、普段事務所ではわからない、プロジェクトを取り巻く「人間の物語」の一端を見ることができました。



呉会長の説明を聞いているウィルキンソンさん

私たち事務所員は、ともすると事実に関する情報発信が広報だと考えてしまいます。しかし、多くの人々の心をつかむためには、「人間の物語」を発見し、それを組み立てて、発信する作業が必要だと実感しました。ウ

イルキンソンさんの中国訪問は非常に意義深いものであり、今後の私たちの広報のあり方について非常に多くの示唆を与えるものでした。

(2) 日中のビジネスマンが大連で会社法を学ぶ！

7月24日、大連日中友好人材育成センターにおいて、経済法・企業法整備プロジェクト「第二回日中公司法セミナー」が開催され、中国商務部、大連市、大連の日系企業、中国企業を中心に、約100名の出席者が参加して盛況のまま幕を閉じました。

本プロジェクトの支援対象の一つである中国公司法（会社法）は、昨年10月に制定・公布されました。今回、その中国会社法の外商投資企業への適用を主なテーマとし、日中の著名な有識者、立法担当者による講演とパネル・ディスカッションを行うことにより、日中会社法の新たな展開について理解を促進すると共に、プロジェクトの成果を広く知らしめることができました。また、日本政府の無償資金協力で今年3月に設立された「大連日中友好人材育成センター」で行った初めての大きな催事となり、同センターのお披露目をする良い機会にもなりました。



セミナー第1部では、「日中会社法の新展開」をテーマとし、今年度施行された日本会社法の改正に参画した法務省民事局の細川充氏がまず講演し、日本の会社法改正の概要を解説するとともに、中国会社法改正における主要論点である設立規制やコーポレートガバナンスについて、日本会社法の経験をもとに説明しました。次に、中国政法大学管曉峰教授の講演では、中国会社法に新たに導入された一人会社制度の特殊性に

ついて説明がありました。

第二部では「中国新会社法の外商投資企業への適用」をテーマとし、中国商務部条約法律司の鮑冶処長が公司法改正による外商投資企業への影響について説明し、引き続き、森・濱田松本法律事務所の射手矢好雄氏が、会社法改正の日系企業への影響について説明しました。お二人の講演に続き、本プロジェクト国内支援委員長の一橋大学国際企業戦略科の布井千博教授を司会者、清華大学法学院教授の朱慈蘊教授をコメンテーターとして、鮑氏と射手矢氏を交えた4人によるパネル・ディスカッション形式で活発な意見交換が行われました。

議論は、主に公司法（会社法）と特別法、あるいは行政法規や部門規定が適用される優先順位や適用範囲をめぐって行われ、なかでも合弁企業による中国国内での再投資が制限なく可能であるのか、あるいは外商投資企業が純粋持ち株会社として認められうるか等の具体的な実務問題について議論が行われました。現在は、それぞれの規定が矛盾する場合もあるようですが、中国政府（国務院）と立法機関である全人代は、市場経済化が急速に発展する速度に合わせて、経済法・企業法のあらゆる分野において早急な法整備を行うことが求められております。すべての法体系を直ちに矛盾なく整備することは難しいようですが、最も緊急性の高い分野から確実に整備を進めつつある様子が見えられました。

また、これらの問題は、セミナーに参加した日系企業にとっても大変に関心の高いものであり、質疑応答の時間には、合弁企業における監事会の設置についてなど、多数の質問が出されました。アンケートの結果を見ても、具体的な実務問題について中央政府の担当者の声を直接聞くことができたことを評価する意見が多く見られるなど、参加者からも高い評価を頂きました。

(3)「JICA 国際協力中学生・高校生エッセイ・コンテスト 2005」優秀作品入賞者が中国研修旅行で訪！

JICA では、日本の中学生や高校生を対象として、もっと途上国のことに目を向けてもらうためのきっかけになるように、毎年エッセイ・コンテストを実施しています。

毎年非常にたくさんの作品が集まりますが、脚本家の小山内美江子さんらによる厳しい審査を経て、今回優秀作品に選ばれて中国にやってきたのは、木村友紀さん(兵庫県小林聖心女子学院高等学校 3 年生)を始めとする計 7 名の入賞者と同行の大滝智子さん(現静岡県国際協力推進員)でした。

北京に到着した初日の歓迎会の席では、参加者の口々から、「マスコミから得ている中国のイメージがとても怖く、研修旅行に参加するのを躊躇していた。」とか、「ちょうどオーストラリアへの修学旅行と重なったが、悩んだ末に修学旅行を諦めこちらに参加した。」など、かなり無理をおしてこの研修旅行に参加したような発言が見受けられたため、若干成り行きが心配されました。



地元の中学生と交流する小川春奈さん

旅行スケジュールはかなりきつく、毎朝早くから JICA の協力プロジェクト視察や、撫順での JOCV 隊員配属先である中学校との交流行事に引き続いての中学生家庭へのホームステイなど、非常に盛りだくさんでしたが、いろいろな場所でたくさんの人々と会い、話をしていくうちに、参加者のみなさんの中国や中国の一般市民に対するイメージが徐々に変わって行ったようです。特に、日本語を習っている中学生の家庭で 1 晩過ごすというホームステイでは、始めは全員かなり緊張したようですが、ホームステイ先の中学生が片言の日本語でいろいろなことを一生懸命話しかけてくれたことからすぐに仲良くなり、次の日の別れ際には日本側もホスト側も涙、涙の別れだったとのことでした。

途中体調を崩して中日友好病院に入院しホームステイができなかった後藤ライスさん(岡山県在住)は、残念ながら研修旅行に参加できませんでしたが、帰国前

の最終報告会では、参加者全員が、「中国の人が全員日本を嫌っているわけではないと知って、自分の見方が大きく変わった。」、「自分も中国や中国語をもっと勉強したいと考えるようになった。」など、みんなの心に深い印象を残した素晴らしい経験となったようでした。

なお、全員が家族や友人にお土産を購入したのはもちろんのこと、自分用の美しいチャイナドレスも購入していましたので、きっといい思い出の品となることでしょう。



記念のチャイナドレスで美しくポーズ！

(4) 協力隊員が中国の日本語教師の先生に！

～第1回全国大学日本語教師研修会～

7月25～28日に北京の高等教育出版社において、国際交流基金北京事務所等の主催による「第1回全国大学日本語教師研修会」が開催されました。これは大学で専攻外や第二外国語としての日本語教育を行う中国人教師向けに行われた初めての全国規模の研修会です。日本語専攻以外の学生に対する日本語教育は、専門分野を持ち今後の中国を担って行く若者に対しての日本理解促進とも言えることから、その重要性が指摘されています。今回この研修会に青海大学で活動し



ている山口恵美湖隊員、新疆農業大学の垣内直子隊員が講師として参加しました。山口隊員は「効果的な視聴覚授業」、垣内隊員は「日本語教育とインターネット検索エンジン活用法」と題し講義を行い、関係者および受講者からも高い評価を得ました。青年海外協力隊は日中の相互理解増進および草の根レベルにおける技術協力のために今後も幅広い活動を進めていきたいと考えています。

(5) 中国で初めての帰国研修員同窓会設立！ ～医療分野の帰国研修員～



「JICA 医療分野帰国研修員同窓会」設立大会

8月4日、「JICA 医療分野帰国研修員同窓会」の設立大会が中日友好病院にて開催されました。同会議においては医療分野の帰国研修員 64 名(実際の登録会員は既に240名に達している)、科学技術部、衛生部、日本大使館、JICA 医療分野の日本人専門家及び当事務所の代表を含め、合計 80 名以上の関係者が出席しました。

設立大会に先立ち、予備会が開催され、同窓会理事会構成員の人選を行い、また会則案と年度活動計画についても協議のうえ全員一致で承認されました。設立大会では、日中関係機関代表の挨拶の後、JICA 中国事務所医療分野担当所員より「医療保健分野における JICA 対中協力の実績と現状」と題する講演が行われ、参加者に協力プロジェクトの最新情報を提供しました。

今回設立された同窓会は中国における初めての分野別帰国研修員同窓会であり、これから同会の活動展開を通じて、帰国研修員同士及び彼らと日中関連機関

との間の交流が深まり、引き続き中国の経済・社会の発展に貢献すると共に日中両国国民間の相互理解と信頼の増進にも役に立つことになると期待されます。



初代理事長の劉曉勤先生(中日友好病院副院長)

今後は、同窓会としての HP の立ち上げの他、秋には北京郊外で農村部向けの無料診療ボランティア活動が予定されていますので、引き続き同窓会の活動を皆様に紹介する予定です。

(6) JOCV隊員夏総会開催！

7月16日(日)から7月18日(火)の日程で、ボランティア総会が北京で行なわれました。ボランティア総会は、中国各地のボランティア総勢 70 名あまりが集まり、交流や事務所からの連絡、健康診断等のために、年に 2 回行なわれています。

中国は国土が広く、ボランティアの方は各地方に散らばっているため、こういったボランティアが集まる機会というのは大変貴重で、この機会を利用して様々な行事が行なわれました。行なわれた日程は以下のとおりです。

16日(日)	健康診断
17日(月)	隊員総会 有識者講演「フウミャオNET」ーミャオ族刺繍を育てる会ー 自治会主催 異職種交流会 自治会会議
18日(火)	分科会 自治会主催懇親会

有識者講演では、中国の少数民族であるミャオ族の刺繍に魅せられ、刺繍の販売を通して、伝統を未来に伝えていこうと活動している「フウミャオNET」の佐藤雅彦さん、佐藤みずよさん夫妻に講演をしていただきました。ボランティアで派遣されている方々も、佐藤さん夫妻の考えに共感し、自分の活動につなげていく参考になったようです。総会直後、刺繍の販売店を訪れた隊員もいたほどでした。

また、異職種交流会は協力隊隊員が企画したもので、普段なかなか交流の機会がもてない派遣職種以外の隊員との交流を目的とし、食事をしながらのリラックスムードの中で、お互いの苦勞、経験などを話し合っていました。

分科会では、日本語教師隊員は国際交流基金で模擬授業、意見交換会を行い、お互いのレベルアップを図っていました。看護師隊員は、9月に蘇州で開催される日中看護学会において論文発表を行うため、その最終準備に全力を注いでいました。

18日の夜は懇親会が行なわれ、お酒を交えての交流や、楽器の演奏やダンスなど日頃(?)の練習の成果を十分に発揮していました。

※ 『フウミャオNET』のホームページは、以下のとおりです。

<http://popup6.tok2.com/home2/masamizu/index.htm>

2. 主な調査団(派遣中・派遣予定)(7月)

ア. 安全生産科学技術能力強化計画事前補足調査団(8/2-7)

イ. 農村養老保険制度整備調査第2次(第三回)現地調査(8/7-9/7)

ウ. 水利権制度整備現地モニターリング調査(8/16-30)

エ. ODA民間モニター考察団訪問(8/19-26)

オ. 新疆天然草地保護及び牧民定住事前調査(8/27-9/15)

3. 今月の行事

8/4 「JICA 医療分野帰国研修員同窓会」設立大会

8/22 青年招聘第11陣「中国実務者招聘計画」歓送レセプション

8/19-26 ODA民間モニター